

## 令和6年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒の自己実現を図るため、多様な社会でたくましく生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する。

1. 確かな学力の育成～基礎・基本の徹底、他者との協働の中で考え自分の言葉で説明できる力の育成を図る
2. 夢と志を持ち、能動的に学ぶ姿勢を身につける～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する
3. 学校力のパワーアップ～保護者や地域の連携を大切にし、生徒の生きる力を引き出し育てる学校

## 2 中期的目標

生徒の自己実現を図るため、多様な社会でたくましく生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する

## 1. 確かな学力の育成～基礎・基本の徹底、他者との協働の中で考え自分の言葉で説明できる力の育成を図る

- (1) 3年間の学習目標と計画「寝屋川高校スタンダード」の策定とそれに基づいた教科指導
- (2) 進路部主導で学習支援クラウドサービスを活用し、学習意欲・学習習慣を身につけ、自学自習の力を育む
- (3) 1人1台端末等 ICT 機器の積極的活用、授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る
- (4) 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」のさらなる向上をめざす
- (5) 講習、補習の計画的実施と内容の充実
- (6) 新学習指導要領や観点別評価の確実な実施、確かな学力が大学入学共通テストに結びつく対策をおこなう

※大学入学共通テスト 対全国平均得点率 15%アップ（令和6年度 大学入学共通テスト全国比較 10%アップ）（R3 14%・R4 9%・R5 11%）  
（得点率をあげることで、国公立大学や難関私立大学への受験希望者の第1希望の割合を維持する。）

## 2. 夢と志を持ち、能動的に学ぶ姿勢を身につける～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する

- (1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む
- (2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う
- (3) 人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神やグローバル社会に対応できる人材の育成を図る
- (4) 生徒のコミュニケーション能力、文章や情報を読み解き対話する力を向上させる取組みを充実させる
- (5) 社会貢献やボランティア活動、地域との連携、各種コンテストなどへの積極的参加の推奨
- (6) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進 ※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率（R5 94.8%）を令和8年度には95%にする。（R3 87.5%・R4 82.3%・R5 94.8%）  
※「自分の考えをまとめたり発表する機会」の肯定率（R5 90.8%）を令和8年度には95%にする。（R3 88.0%・R4 92.8%・R5 90.8%）

## 3. 学校力のパワーアップ～保護者や地域の連携を大切にし、生徒の生きる力を引き出し育てる学校

- (1) 新しい組織の充実 横断化・全体化するためのシステムづくりを進める
- (2) 目標と成果の共有、当事者意識に基づく協働の推進による質の高い教育実践のためのRPDCAサイクルの定着（各教科・学年・分掌）
- (3) 教職員の組織的・継続的な人材育成 首席・指導教諭などを中心とした課題別、経験別の職員研修体制の充実を図り教員力のさらなる向上を図る
- (4) 安心安全で魅力ある学校づくり 教育相談体制のさらなる充実等により、事象の早期発見早期対応につなげる
- (5) 広報戦略を検討し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に生徒・保護者・中学生・地域等へ発信する
- (6) 教員力を最大限に引き出すため、「働き方改革」について整理検討する ※職員全体時間外勤務昨年度比で5%減
- (7) 校舎改築にあたり、未来型の教育を研究しつつ、進行管理を教育庁、PTA、同窓会、地域等と共有し進める

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]   | 学校運営協議会からの意見   |
|---|--|
| <p><b>【生徒】</b><br/>○肯定的回答が80%以上：15/17項目（90%以上：11/15項目）<br/>○評価数値の全項目平均値は上昇傾向（R4 3.33→R5 3.35→R6 3.39）<br/>○1人1台端末の活用、部活動での成長、人権教育の機会、授業以外での学力向上の場などの項目は、昨年度より上回ったので引き続き取組の充実をめざす。一方で、学校行事・部活動・学習の両立や家庭学習の時間は80%に達しておらず、次年度の取組内容について改善を行う。</p> <p><b>【保護者】</b><br/>○肯定的回答が80%以上：14/16項目（90%以上：8/14項目）<br/>○評価数値の全項目平均値は横ばい（R4 3.14→R5 3.14→R6 3.14）<br/>○子どもの様子を学校で見る機会、教育活動の発信、学力が向上して満足などの項目は、昨年度より上回ったので引き続き取組の充実をめざす。一方で、施設設備面や授業以外の学力増進の活動は80%に達しておらず、次年度の取組内容について改善を行う。</p> <p><b>【教員】</b><br/>○肯定的回答が80%以上：11/16項目（90%以上：6/11項目）<br/>○評価数値の全項目平均値は改善傾向（R4 3.19→R5 3.10→R6 3.15）<br/>○PDCAサイクルの浸透、組織的な教育活動、教育相談体制などの項目は、昨年度より上回ったので引き続き取組の充実をめざす。一方で、新たな課題への対応や学習指導計画や評価、いじめの迅速な対応は80%に達しておらず、次年度の取組内容について改善を行う。</p> | <p><b>【第一回】7/3（水）</b><br/>○3学期制について、授業時間の変更・定時制との兼ね合い・部活動時間の見直し・行事の時期・学力への影響など、改めて確認・協議していく必要がある。<br/>○高校には、小中学校は17時間完全下校が定着しており生徒へのより良い環境の提供や教員の負担減を考えると、コミュニケーション能力や自己肯定感を育んでほしい。<br/>○生徒・保護者アンケートより、制服・生徒ロッカー・校舎の環境など教員間で認識を共有してほしい。</p> <p><b>【第二回】11/9（土）</b><br/>○良い授業であるが授業アンケートとのギャップがある場合、数値に一喜一憂するのではなく授業の本質を見極める必要がある。普段からの信頼関係・人間関係が大切である。<br/>○黒板が見づらい。スライドと黒板の両方を使い授業を進めているのは良いが、授業のめあてを明確にして、タブレットも活用して進捗状況や進度を調整してはどうか。<br/>○生徒は前向きに取り組むが、ペアワークや机間指導は目的を再確認する方が良い。<br/>○観点別評価は、今までの授業や評価方法を変えるものではないが、評価基準を生徒・保護者に学校として公開し、授業ごとに見取る観点を明確にする方が良い。</p> <p><b>【第三回】2/4（火）</b><br/>○国際交流やクラウドサービスの活用、近隣小学校との連携などよく取り組んでいる。<br/>○学校の取り組みは素晴らしいので胸を張ってPRしてほしい。<br/>○働き方改革と部活動の時間確保の両立は課題である。<br/>○前後期の授業アンケートで同じ様な内容の生徒・教員は対応が必要である。<br/>○生徒会や生徒が中心になり、学校の取り組みをアピールできるようになってほしい。</p> |

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                      | 今年度の重点目標  | 具体的な取組計画・内容  | 評価指標[R5年度値]  | 自己評価   |
|----------------------------|---|--|--|--|
| 1<br>確かな学力の育成              | <p>(1) 3年間の学習目標と計画「寝屋川高校スタンダード」の策定とそれに基づいた教科指導</p> <p>(2) 進路部主導で学習支援クラウドサービスを活用し、学習意欲・学習習慣を身につけ、自学自習の力を育む</p> <p>(3) 1人1台端末等ICT機器の積極的活用、授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る</p> <p>(4) 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」のさらなる向上をめざす</p> <p>(5) 講習、補習の計画的実施と内容の充実</p> <p>(6) 新学習指導要領や観点別評価の確実な実施、確かな学力が大学入試共通テストに結びつく対策をおこなう</p>                 | <p>(1) 学力向上委員会と進路部の主導で、各学年・各教科等の3年間の学習目標と計画を策定し、生徒・保護者に示す。授業の実施にあたっては、共通事項を決めて実施する。</p> <p>(2) 年2回到達度テストを実施。振り返りの実施で弱点補強と学習意欲の向上を図る。</p> <p>(3) 学力向上委員会が主軸となり研修会を実施。学習支援クラウドサービス等の活用方法について、研究し、教員力向上の支援を行う。</p> <p>(4) 公開授業、研究協議を全教員で実施し、「授業力」の向上を図る。</p> <p>(5) 進路部が統括して講習を計画的に実施する。授業以外のサポート体制を充実する。</p> <p>(6) 新学習指導要領のねらいを理解し、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養といった指導と評価の一体化を確実に実施する。</p>   | <p>(1) すべての教科において研究授業・研究協議を実施。模試等の結果について各学年・教科で振り返り、指導内容・方法等について確認する。(教職員自己診断) 教育目標を共有し、組織的に取り組む80%以上 [71.7%]<br/>学校教育自己診断(生徒・保護者) 「方針や活動・計画を分かりやすく示している」生徒88%<br/>保護者85%以上 [85.0%・80.1%]</p> <p>(2) 授業アンケートの「授業に集中」の項目で89%以上を維持 [89.3%]<br/>学校教育自己診断(生徒)「自分で計画を立て、家庭で学習する時間」78%以上を維持[78.2%]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断における、授業に関する満足度「教え方の工夫・授業がよくわかる」90%を維持する [91.1%]</p> <p>(4) 相互授業見学週間の実施2回[2回]<br/>大学入学共通テストの全国平均に対する得点率10%アップ [5%]</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断の「講習や補習」95%以上を維持 [96.8%]</p> <p>(6) 学校教育自己診断(教職員)「各教科において学習指導計画や評価について十分な議論がなされている」90%以上を維持 [90.4%]</p> | <p>職会・学年会・教科会・分析会や研究授業で研究協議を実施(○)<br/>教員 87.3%(◎)<br/>生徒 87.9%(○)<br/>保護者 84.1%(△)</p> <p>授業アンケート 93.6%(◎)<br/>生徒 77.6%(△)</p> <p>生徒 90.8%(○)</p> <p>相互見学を6月・10月に実施(○)<br/>得点率9%アップ(○)</p> <p>生徒 97.4%(○)</p> <p>教員 79.6%(△)</p>   |
| 2<br>夢と志を持ち、能動的に学ぶ姿勢を身につける | <p>(1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む</p> <p>(2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う</p> <p>(3) 人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神、グローバル社会に対応できる人材の育成を図る</p> <p>(4) 生徒のコミュニケーション能力、文章や情報を読み解き対話する力を向上させる取組みを充実させる</p> <p>(5) 社会貢献やボランティア活動、地域との連携、各種コンテストなどへの積極的参加の推奨</p> <p>(6) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進</p> | <p>(1) 基本的な生活習慣・規律(挨拶、時間、清掃、感謝、貢献)が将来の進路実現に繋がるように日常的に全職員で指導に当たる。学年団を中心に、総合的な探究の時間を活用し、将来の職業選択に生きるキャリア教育を進める。</p> <p>(2) 生徒会中心に全日制と定時制の連携を図り、協働の取組みを行う。近隣の小中学校、高等学校や地域との連携の方法を模索し実施する。部活動を通じたリーダーの育成を図る。</p> <p>(3) 人権研修の在り方を探究委員会で検討し、全体計画を作成する。3年間を見据えた人権教育の構築と組織的な国際交流活動を充実する。</p> <p>(4) 1人1台端末等ICT機器を活用し、プレゼンや発表の機会を校内外で実施する。</p> <p>(5) 授業や部活動を通してコンテストに参加を積極的に呼び掛け、機会を多く設定する。寝屋川市や市内中学校、福祉施設など外部との連携交流を推進する。</p> <p>(6) 2年生の芸術鑑賞、3年生の文楽鑑賞のほかに読書マラソンや各種コンテストにチャレンジを呼びかける。</p> | <p>(1) 生徒の学校教育自己診断「進路選択について相談する機会」95%以上を維持 [96.7%]<br/>「自分のスケジュールを管理し、学校行事や部活動と学習に両立ができる」74%以上[74.2%]<br/>年間遅刻回数1500件未満をめざす [1422件]</p> <p>(2) 生徒の学校教育自己診断「学校行事に積極的に楽しく参加」94%を維持 [94.9%]</p> <p>(3) 人権教育の評価(生徒)90%以上 [94.8%]<br/>海外研修を含めた国際交流活動の実施<br/>参加者満足度90%以上</p> <p>(4) 総合的な探究の時間、修学旅行プレゼン、人権及びSDGs探究学習、英語スピーチコンテスト等の実施<br/>考えをまとめ発表する機会(生徒)90%以上を維持 [90.8%]</p> <p>(5) 校内コンテスト実施<br/>外部のコンテスト等への参加および参加促進<br/>寝屋川市や小・中学校との様々な連携</p> <p>(6) 全員対象の読書コンクール<br/>読書マラソンの実施</p>   | <p>生徒 95.8%(○)<br/>生徒 75.5%(○)<br/>年間遅刻回数 1,447件(○)</p> <p>生徒 96.2%(◎)</p> <p>生徒 96.9%(◎)<br/>7月オーストラリア語学研修・12月フィリピングローバル研修の実施、大阪国際大・タイ高校生との交流会の実施(○)<br/>満足度(オーストラリア)96.5%<br/>(フィリピン)100%(○)</p> <p>7月人権学習、12・1月英語スピーチコンテスト、2月探究発表会の実施(○)<br/>生徒 93.5%(◎)</p> <p>芸文祭や高校生ビズコンテストへの参加を実施(○)<br/>わくわく教室や部活動体験の実施(○)</p> <p>図書館報に読書コンクール生徒論文の掲載、11月に読書マラソンの実施(○)</p> |

## 府立寝屋川高等学校

|                                   |   |   |   |  |
|-----------------------------------|---|---|---|--|
| <p>3<br/>学校力の<br/>パワー<br/>アップ</p> | <p>(1)新しい組織の充実 横断化・全体化するためのシステムづくりを進める</p> <p>(2)目標と成果の共有、当事者意識に基づく協働の推進による質の高い教育実践のための RPDCA サイクルの定着 (各教科・学年・分掌)</p> <p>(3)教職員の組織的・継続的な人材育成 首席・指導教諭などを中心とした課題別、経験別の職員研修体制の充実を図り教員力のさらなる向上を図る</p> <p>(4)安心安全で魅力ある学校づくり～教育相談体制のさらなる充実等により、事象の早期発見早期対応につなげる</p> <p>(5)広報戦略を検討し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に生徒・保護者・中学生・地域等へ発信する</p> <p>(6)教員力を最大限に引き出すため、「働き方改革」について整理検討する</p> <p>(7)校舎改築にあたり、未来型の教育を研究しつつ、進行管理を教育庁、PTA、窓会、地域等と共有し進める</p> | <p>(1)「寝屋高みらいPT」を活性化し、学校の課題を洗い出し内外に向けた魅力化を図る。めざす学校像・育てたい生徒像を共有する機会を常に設け、教育全体を見据えた業務の連携を探る。</p> <p>(2)学校教育自己診断、学校運営協議会の意見等を学校運営改善に反映させる。各学年・分掌・委員会の「総括」から、個人だけでなく、組織(分掌・学年等)目標を立てた取組みにする。</p> <p>(3)次代のミドルリーダーとなる教員研修の実施。現ミドルリーダーをけん引役として実施し相互向上を図る。経験年数の少ない教員に対しては、地域行事や学校説明会等に積極的に参加させる。府教育センターの研修や、大学と連携した研修、校内研修により継続的な教員の資質向上を図る。</p> <p>(4)教育相談にかかる理解を深める機会を増やし常に共通理解に努める。ケース会議やSCによる教員研修の実施。感染症予防を含む防災に関する LHR を計画する。発生が予想される自然災害等に備え、生徒の防災意識を高める。</p> <p>(5)学校紹介パワーポイントや学校案内(次年度向け)のリニューアル、保護者向けメールの徹底周知を図る。寝屋川市や地域との連携で生徒の活動を支援する。</p> <p>(6)各学年、分掌内における業務の精査及び部活動方針の遵守により、働き方改革を進める。</p> <p>(7)校舎改築にあたり、未来型の教育について調査・研究を進める。</p> | <p>(1)目標共有にかかる教職員自己診断結果 80%以上 [71.7%]</p> <p>(2)RPDCA サイクルにかかる職員自己診断結果 70%以上 [58.7%]<br/>学校教育自己診断 職員提出率 100% [75.4%]</p> <p>(3)ミドルリーダー研修 実施回数と振り返り 5回以上 [5回]<br/>経験年数の少ない教員の指導 実施回数と振り返り 5回以上 [5回]</p> <p>(4)自己診断結果 (教職員)90%以上 [89.2%]<br/>(生徒)88%以上を維持 [88.1%]<br/>SNS を利用しての安否確認 1回</p> <p>(5)生徒や経験年数の少ない教員なども参画し、学校案内の改定、HP の内容の生徒の活動等における更なる充実を図る。寝屋川市や地域と連携した生徒会活動、学校行事に積極的に参加している 94%以上を維持 [94.9%]</p> <p>(6)時間外勤務時間を昨年度比 5%減 [15.1%]<br/>時間外勤務月 80 時間超の教員数を昨年度比 5%減 [7%]</p> <p>(7)先進校等の調査・研究活動、視察等 高等学校 DX 加速化推進事業の活用</p> | <p>教員 87.8%(◎)</p> <p>教員 79.5%(◎)</p> <p>教員提出率 83.1%(△)</p> <p>授業力向上・DX 等をテーマに研修を 5 回実施(○)<br/>教育 C 研修に合わせて経験年数の少ない教員向けに研修を 5 回実施(○)</p> <p>教員 93.8%(◎)<br/>生徒 88.0%(○)<br/>安否確認を 5 月実施(○)</p> <p>HP 内容・校長ブログや学校説明会の充実、説明会 QR コード受付を実施(◎)</p> <p>生徒 96.2%(◎)</p> <p>時間外在校等時間 9%増 (12 月時点)(△)<br/>80h 超昨年度比 6%減 (○)</p> <p>関東地方 4 校や近畿圏先進校の視察状況を教員全体で共有し、DX ハイス쿨のラボ設計やカリキュラムづくりに反映(○)</p> |
|-----------------------------------|---|---|---|--|